再評価結果（平成１６年度事業継続箇所）

担　当　課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：　斉　　藤　　親

事業名	東武野田線（野田市）連続立体交差事業	事業区分	連続立体交差事業	事業主体	千葉県
起終点	自：千葉県野田市清水　至：　野田市中根新田			延長	２．９㎞

事業概要

東武野田線清水公園駅〜梅郷駅間の約２．９ｋｍにおいて鉄道を高架化し、ボトルネック踏切２カ所を含む１０カ所の踏切を除却し、踏切遮断による交通渋滞、踏切事故の解消を図るとともに、関連事業と連携して、鉄道により分断された中心市街地の一体化を促進する。

Ｈ１８年度事業化	Ｈ１７年度都市計画決定（Ｈ　　年度変更）	Ｈ１８年度用地着手	Ｈ１９年度工事着手

全体事業費（連立）	２５２　　億円	事業進捗率	％	供用済延長	０㎞
踏切交通遮断量	２６４，８８４　　台・時／日				

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用	総便益	基準年
	(事業全体) ２．２４ (残事業)	(残事業)/(事業全体) /３１０ 億円 連立事業費：/196 億円 関連事業・維持管理費：/114 億円	(残事業)/(事業全体) /６９６ 億円 走行時間短縮便益：/ 671 億円 走行費用減少便益：/ 21 億円 交通事故減少便益：/ 4 億円	平成１６年

感度分析の結果

事業の効果等

・円滑なモビリティの確保（ボトルネック踏切を含め、過度に連坦した踏切を除却）
・都市の再生（中心市街地内で、区画整理事業と連携して都市の拠点を形成）
・個性ある地域の形成（鉄道により一体的発展が阻害されている地区を解消）
など１４項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

・野田市の都市計画マスタープランで駅周辺整備や鉄道の連続立体交差化が位置づけられているとともに、野田市から早期事業化の要望を受けている

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成１５年、関連事業の駅周辺土地区画整理事業一部事業化

事業の進捗状況、残事業の内容等

都市計画決定手続き中

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

立体化区間の調整や関連事業の具体化に時間を要してきたが、関係者間の合意が整い、Ｈ１８年度に事業着手の見通しである

施設の構造や工法の変更等

対応方針	事業継続

対応方針決定の理由

異常の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は当初から変わらないと考えられる

事業概要図

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。